

専大附 「応援されるチーム」



笠間陽向
(3年)

最速140キロの骨太エース。重みのあるストレートで真向勝負する剛腕だ。「チームを元気付けるピッチングをみせたい」



中口隼輔
(3年=中堅手)

川口純平主将
(3年=遊撃手)

高橋塁
(3年=一塁手)

中口は俊足巧打の1番バッターで高い出塁率でチームを活性していく。川口主将は攻守の要。高橋は走攻守3拍子揃ったハイスベックプレーヤーだ



今春は都立実力校を撃破し都大会出場 最速140キロのエース笠間を軸に戦力整う

専大附が昨夏の西東京大会で存在感をみせた。選手の個性を活かし「万人に応援されるチーム」を目指しながら結果を追求していく。

■昨夏は6年ぶりのベスト16進出

昨夏の西東京大会では3回戦で立川、4回戦で聖徳学園に勝ち切って6年ぶりにベスト16へ進出した。5回戦では国学院久我山と対戦し初回到1点先制すると、5回に主砲・八木勇成がライトスタンドに豪快な3ランを打ち込んで4対1とリードを広げ、スタンドを盛り上げた。金星が見えてきた状況で最終的には突き放されて敗れたが、16強進出は堂々の結果。選手たちは完全燃焼で夏大会を終えた。就任3年目のOB指揮官・二井見淳監督が目指すのは「万人に

応援されるチーム」。学校生活から野球部員としての規律を守り、周囲をサポートしていくことで「学校内で応援されるチーム」、「甲子園から招待されるにふさわしいチーム」を目指す。

■主砲・高橋が攻撃のキーマン

2025年夏へ向かう攻撃の屋台骨を担うのは、昨夏の国学院久我山戦を経験した川口純平主将(3年=内野手)、高橋塁(3年=内野手)、中口隼輔(3年=中堅手)のフィールドプレーヤー。川口主将は軽快なグラブさばぎでアウトを稼ぐショートストッパー。攻撃ではシャープな打撃でチャンスを広げていく。4番を任される高橋はスケールの大きいフォームから長打を放つ強打者。守備力も高く、チームに欠かせない存在だ。中口は俊足巧打の1番打者で、努力

の成果を打率につなげている。チームの大黒柱は、最速140キロの

闘争派エース笠間陽向(3年)だ。威力あるストレートを勇敢に投げ込む西東京屈指の剛腕で、タフなゲームを投げ切るスタミナも備えている。チームテーマは「声で圧倒」。ベンチを含めた「声」で盛り上げていく。

■春は足立新田に勝利し都大会へ

今季のチームは、昨秋予選で実力校・修徳と対戦して7対8で惜敗した。甲子園実績を持つ強豪に対して一歩も引かない戦いを見せたが、勝負所で攻めきれずに「1点」に泣いた。この冬、チームは「1点の重み」をテーマに練習に励み、1プレーに集中した。3月下旬の春予選では都立実力校・足立新田と対峙し、エース笠間が131球の完投勝利。選手たちは攻守一体の戦いで本戦出場をかけた大一番を3対2で制

した。エース笠間は「秋に修徳に負けた悔しさを春にぶつけた。一丸となった戦いが勝利につながった」と話した。守備が安定するチームは夏へ向けて大きな可能性を秘めている。川口主将は「今年のチームは攻守のバランスが整っている。みんなの声で盛り上げて夏ベスト8以上を目指したい」と夏を見据える。専大附は、今年の西東京大会のダークホースとなる。

専修大学附属高校

【住所】東京都杉並区和泉4-4-1
【創立】1929年 【甲子園】なし
京王商業学校として創立し、1948年に京王学園、1969年に現校名に改称。1994年に共学化。生徒の約9割が専修大へ進学する。野球部の主な実績は2013年夏ベスト8、2018年夏、2021年春ベスト16進出など。



専大附・二井見淳監督

1点の重みを理解していく

「監督就任から2年が経過しましたが、シードクラスのチームに勝ち切ることの難しさを感じています。個人で戦うのではなくチームとして束になって戦うことが大切。選手たちは着実に成長しているので、1点の重みを浸透させることで結果をつかんでいきたいです」

1992年東京都出身。専大附-専大。社会人2年目から外部コーチとして母校・専大附を指導し、その後、教員として専大附へ。助監督を経て2023年4月から監督。数学科教諭。